

こまつな に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年9月11日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	白さび病	うどんこ病	さび病	灰色かび病	斑点細菌病	褐斑細菌病	根こぶ病	萎黄病	その他 病害虫								
バスアミド微粒剤							●	●	一年生雑草	20~30kg/10a	は種10日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回	8F	
ガスタード微粒剤							●	●	一年生雑草	20~30kg/10a	は種10日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	ダゾメット	1回	8F	
フロンサイド粉剤							●		立枯病(リゾクトニア菌)	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	フルアジナム	1回	29	
ネビジン粉剤							●			20~30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	フルスルファミド	1回	<非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当>	36
										20kg/10a	は種又は定植前	1回	作条土壌混和				
リドミル粒剤2	●									10kg/10a	は種前 但し、収穫21日前まで	1回	全面土壌混和	メタラキシル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内)	4	
アミスター20フロアブル	●								白斑病	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回以内	散布	アゾキシストロビン	3回以内(但し、粒剤は1回以内、水和剤は2回以内)	11	
ライメイフロアブル	●									2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回以内	散布	アミスルプロム	6回以内(但し、土壌混和は2回以内、灌注は1回以内、散布は3回以内)	21	
ランマンフロアブル	●									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回以内	散布	シアゾファミド	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当>	21	
ジーファイン水和剤	●									1000倍 (150~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	<野菜類(なすを除く)該当>	NC
		●								750~1000倍 (150~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布				
									軟腐病	1000倍 (150~500ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	無水硫酸銅	-		MO1
ハーモメイト水溶剤			●	●						800倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	<野菜類該当>	NC
		●								800~1000倍 (150~300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布				

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

＜殺菌剤＞ こまつな

【令和6年9月11日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 ＜備考＞	分類 コード
	白さび病	うどんこ病	さび病	灰色かび病	斑点細菌病	褐斑細菌病	根こぶ病	萎黄病							
カリグリーン			●	●					800倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	- ＜野菜類(トマト、ミニトマトを除く)該当＞	NC
		●							800～1000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ボトキラー水和剤		●		●					1000倍 (150～500ℓ/10a)	発病前～発病初期	-	散布	バチルスズブチリス	- ＜野菜類該当＞	BM02
				●					300g/10a (6～10ℓ/10a)	発病前～発病初期	-	常温煙霧			
		●							15g/10a/日	発病前～発病初期	-	ダケ外投入			
				●					10～15g/10a/日	発病前～発病初期	-	ダケ外投入			
バイオキパー水和剤								軟腐病	500～2000倍 (150～300ℓ/10a)	発病前～発病初期	-	散布	非病原性エルビニア カロトポーラ	- ＜野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)該当＞	-
コサイドボルドー					●	●		黒腐病、軟腐病	1000倍	-	-	散布	水酸化第二銅	- ＜野菜類該当＞	MO1
Zボルドー					●	●		べと病、黒腐病、 黒斑細菌病	500倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	- ＜野菜類(キャベツを除く)該当＞	MO1
								軟腐病	500～1000倍 (100～300ℓ/10a)	-	-	散布			
ユニフォーム粒剤	●								9kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	メタラキシル及びメタ ラキシルM	2回以内(但し、種子への処理は1回以 内、土壌混和は1回以内)	4
								アゾキシストロビン					3回以内(但し、粒剤は1回以内、水和剤 は2回以内)		
スクレアフロアブル								炭疽病	2000倍 (100～300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンデストロビン	3回以内 ＜非結球あぶらな科野菜類該当＞	11

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。



こまつな に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年9月11日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト ウ イ チ モ ジ ヨ	その他 病害虫								
ジェイエース粒剤	●									3~6kg/10a	は種前	1回	作条散布後土壌混和	アセフェート	1回	1B	
ダイアジノン粒剤5		●						ケラ		6kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	ダイアジノン	1回	1B	
			●							6kg/10a	は種時又は定植時	1回	全面土壌混和				
			●							6kg/10a	出芽時	1回	土壌表面散布				
フォース粒剤		●	●							4kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	テフルトリン	1回	<非結球あぶらな科葉菜類該当>	3A
スタークル粒剤/ アルバリン粒剤	●	●								6kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A	
スタークル顆粒水溶剤	●									3000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	3回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A	
		●								2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布				<非結球あぶらな科葉菜類(フゲンソイ、畑わさびを除く)該当>
アクタラ粒剤5	●									6kg/10a	は種時	1回	作条混和	チアメトキサム	3回以内(但し、は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	4A	
アクタラ顆粒水溶剤	●									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	チアメトキサム	3回以内(但し、は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	4A	
ランネート45DF	●									1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	メソミル	3回以内	1A	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> こまつな

【令和6年9月11日現在】

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト シ ロ イ チ モ ジ ヨ	その他 病虫害							
マトリックフロアブル				●						2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	クロマフェノジド	3回以内  (昆虫成長制御剤)  <非結球あぶらな科葉菜類該当>	18
スピノエース顆粒水和剤				●	●	●	●		ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	2500~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	スピノサド	2回以内  <非結球あぶらな科葉菜類(みずな、非結球はくさいを除く)該当>	5
モスピラン顆粒水溶剤	●	●							カブラハバチ	4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	1回	散布	アセタミプリド	1回  <非結球あぶらな科葉菜類(フゲンサイを除く)該当>	4A
モスピラン水溶剤	●	●							カブラハバチ	4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	1回	散布	アセタミプリド	1回  <非結球あぶらな科葉菜類(フゲンサイを除く)該当>	4A
カスケード乳剤						●	●		マメハモグリバエ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	フルフェノクスロン	2回以内  (昆虫成長制御剤)  <非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く)該当>	15
コテツフロアブル						●	●		ハクサイダニ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	1回	散布	クロルフェナピル	1回	13
アフーム乳剤							●			2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	2回 以内	散布	エマメクチン安息香酸塩	2回以内	6
アグロスリン乳剤	●									2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シペルメトリン	2回以内  <非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)該当>	3A
デルフィン顆粒水和剤						●	●	●	ウリノメイガ、オオタバコカ、ハスモンヨトウ	1000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	B T (生菌)	-  <野菜類該当>	11A
プレバソンフロアブル5							●			2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	クロラントラニリプロール	2回以内  <非結球あぶらな科葉菜類(タアサイ、非結球はくさい、なばな類を除く)該当>	28
アカリタッチ乳剤									ハダニ類	1000~3000倍 (100~400ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	プロピレングリコール	-  <野菜類該当>	-
									うどんこ病	2000倍 (100~400ℓ/10a)	収穫前日まで	-	散布	モノ脂肪酸エステル	-	-
ダントツ水溶剤	●									2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	4A

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> こまつな

【令和6年9月11日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	シ キ ス ジ ノ ミ ハ ム	ネ キ リ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ト ウ イ チ モ ジ ヨ	その他 病害虫							
ウララDF	●									4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フロニカミド	2回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	29
アクセルフロアブル		●						●		1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	メタフルミゾン	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	22B
									ハスモンヨトウ	2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
アニキ乳剤		●			●			●	ハスモンヨトウ	1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	6
ディアナSC				# ●		●	●		ハスモンヨトウ、 アザミウマ類、ハ イマダラノメイガ	2500~5000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
									ハクサイダニ	2500倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
プレオフロアブル								●	ハスモンヨトウ	1000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
エコマスターBT						●	●	●		1000~2000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	BT	- <野菜類該当>	11A
				# ●					オオタバコガ、 ハスモンヨトウ	1000倍 (100~300ℓ/10a)	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布			
ブロフレアSC		●				●	●			2000~4000倍 (100~300ℓ/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ブロフラニリド	3回以内 <非結球あぶらな科葉菜類該当>	30

#：「ヨトウムシ」で登録

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。